

湖東普及だより

令和2年
夏号

編集発行

滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：數野 幾久）

（湖東農業普及指導センター）

〒522-0071 彦根市元町4番1号

TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp

Facebook アドレス：https://www.facebook.com/hukyuudayori.kotou

Facebook ページ2次元コードはこちら→



水稻「みずかがみ」特Aに返り咲く！

近年の異常気象の中でも安定した品質の良さ！

令和元年度は、例年に比べ7月が低温になるという異常気象のため、早生品種を中心に白未熟粒が発生し、湖東管内の1等米比率はコシヒカリで72.2%、キヌヒカリで54.4%と品質が大きく低下しました。しかし、滋賀県が育成した品種「みずかがみ」はそのような状況の中でも91.7%と高い1等米比率を維持し、一般財団法人日本穀物検定協会が公表する食味ランキングで、昨年度惜しくも逃してしまった特Aに返り咲くことができました。



「みずかがみ」が特Aを獲得

この特Aへの復活から、年々影響が大きくなっている夏の高温等の異常気象の中でも「みずかがみ」ならば安定した品質の良さを維持できるという結果を得ることができました。

今年度も「特A」を目指そう！

実績のある「みずかがみ」ですが、今後も特A産地として高品質であることはもちろん、安定した収量を確保していくことが重要となってきます。

そこで以下の「4つの対策」に取り組み、品質・収量の高い「みずかがみ」に仕上げましょう。

- ① **カメムシ対策**：地域ぐるみで出穂3週間前・出穂期の2回の畦畔草刈りを実践しましょう。出穂後には薬剤での防除も行いましょう。
- ② **後期水管理**：出穂前後3週間の常時湛水と収穫前の早期落水の防止が決め手です。
- ③ **適期収穫**：黄化粉9割程度での刈り取りが最適です。
- ④ **秋すきの実施**：有機物の分解で次年度の「還元田」発生を防止しましょう。



今こそ話そう 集落営農法人の将来

「人材の棚卸し表」を作成しよう

前号では、集落営農法人の将来に向けた話し合いが徐々に始められていることを紹介しました。今回は「人材の棚卸しの方法」について掘り下げてみます。

通常、集落営農法人の役員会では営農活動を確認する内容がほとんどです。このため、将来に向けた話し合いは時間を必要とするので敬遠されがちです。しかし「人材の棚卸し作業」は集落営農法人の将来予測のために重要な作業です。

この作業はまず、年齢順に組合員全員の名前と現在の役割を、下表の記載例を参考に作成します。次に、5～10年先の組合員の参画状況を予測します。年次ごとに整理すると分かりやすくなります。

「人材の棚卸し表」が仕上がると、①役員の世代交代時期や後継者を誰に指名するか、②次世代のオペレーターは誰にするか、③組合員の免許取得や知識習得をいつ・誰に行うか、などが浮き彫りになってきます。

今後は定年延長により組合員の法人への参画が今まで以上に厳しくなることも予想されます。表の作成で営農活動にあまり参画していない組合員の積極的な出役なども必要なことが分かってきます。

人材の棚卸し表

| 氏名 | 現在の年齢 | 役割 (役員・オペレーター等) | 20●● (現在) | 20●● (●期改選 ●年後) | 20●● (●期改選 ●年後) | 20●● (●期改選 ●年後) | 20●● (●期改選 ●年後) | 20●● (●期改選 ●年後) | 20●● (●期改選 ●年後) | スキルなど |
|--------|-------|-----------------------|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------|
| 滋賀 米太郎 | 73 | 現代表理事 | 理事 | 理事 | 後方支援 | | | | | 大特、危険物(乙4)、会計処理 |
| 近江 麦助 | 64 | 現役員→次期理事候補 | 役員 | 理事 | 理事 | 後方支援 | 後方支援 | | | 大特、危険物(乙4) |
| 湖東 豆蔵 | 59 | 現オペレーター →次期役員・理事候補 | オペレーター | 役員 | 理事 | 理事 | 後方支援 | 後方支援 | | 会計処理、大特 |
| 金亀 花子 | 48 | 育成対象 | | | オペレーター | 役員 | 役員 | 理事 | 理事 | |

将来に向けて組合員に必要な資格や技術を整理しよう

集落営農を継続していくためには、免許や知識を持つ次世代の組合員が必要になってきます。

例えば、農耕車両の大型化やトラクターの公道走行規制緩和により、大型特殊免許(農耕車両限定含む)の取得が必要となる場合があります。また、危険物(ガソリンなど)を取り扱う資格、経営管理をするための技能や知識も必要であるため、人材の棚卸し表で整理しましょう。

免許取得や知識習得が不十分な場合は、だれを・いつ・どのように指導するか話し合ってください。



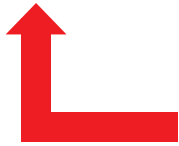
人材育成の話し合いには第三者に同席してもらおう

人材育成の話し合いをする場合、役員会だけでは発言者が偏ったり話題が狭くなる傾向があります。第三者が同席することで新たな発見も見出すこともあるので、ぜひ当課にご相談ください。次回は人材の棚卸し表を元にして、人材の育成方法について紹介します。

秋冬野菜を害虫から守りましょう！

アブラナ科野菜の主要な害虫の防除について

【ハスモンヨトウ】



ハスモンヨトウの幼虫

秋に多発して、アブラナ科野菜を好んで食害します。地中で蛹となり、羽化した成虫が生育しているアブラナ科植物の葉裏に大量の卵を産みます。卵から孵化した幼虫は集団で葉を食べ荒らします。幼虫は成長すると、昼は地中や根元に隠れ、夜になると活動します。

ハスモンヨトウは成長するにつれて薬剤が効きにくくなるため、発生初期の防除の徹底が重要です。発生が見られたら、速やかに適用のある農薬を散布しましょう。

【ハイマダラノメイガ（シンクイムシ）】



キャベツの芯を食害するハイマダラノメイガの幼虫

幼虫は葉柄の隙間に入り、糸を吐いて葉をつづり合わせて食害します。蛹になると、植物の株元の土壌中で越冬します。幼虫も蛹も越冬する数は少ないのですが、そこから世代交代を経て8月～9月頃に発生が多くなり、最も被害が出やすい時期となります。

年により、発生する量は大きく異なりますが、夏季に降雨が少なく、晴天が続いた年の秋は発生が多くなる傾向です。

8月下旬～9月に定植するキャベツなどのアブラナ科野菜は、植物が

小さい時期とハイマダラノメイガの幼虫が多く発生する時期とが重なります。幼虫はアブラナ科野菜の幼植物の芯部に寄生し、生長点付近の新葉を食害するため、成長が止まり枯れてしまったり、奇形になってしまいます。

キャベツやブロッコリーでは、ある程度大きくなると被害は少なくなります。コマツナやミズナなど葉菜類では収穫期まで著しい被害となります。

ダイコン・キャベツ・ブロッコリーなどでは、は種時や定植時、育苗時の薬剤の処理が省力かつ効果的です。

防ごう！秋の農作業事故！

秋は農作業事故が起こりやすい季節です！！

令和元年は県内で40件の農作業事故が発生し、内27件が死亡や重傷等を含む人身事故でした。特に「草刈り」や「刈取・脱穀」作業での事故が多く、夏から秋にかけてのこれからが農作業事故の発生が多い時期になります。今一度、農作業の安全をチェックして事故防止に努めてください。

ヒヤッとした経験その① 刈払機での「刈刃チップの飛来」

刈払機での草刈り作業中に「刈刃の欠片が飛んで来た」ことはありませんか？刈刃に欠けやヒビが生じたまま使用すると、欠けた刈刃が使用者自身に向かって飛んで来たり、周りに飛び散ったりと大きな事故に繋がります。短時間の作業であっても、必ず防護メガネやフェイスシールドなどを装着してから作業するようにしましょう。

ヒヤッとした経験その② 自脱型コンバインへの「巻き込まれ」

コンバインの手こぎ作業中に「腕が引っかかって機械に巻き込まれかけた」ことはありませんか？「刈取・脱穀」ではコンバインのワラ送りチェーンやカッター部に手や腕が巻き込まれる事故が多発しています。コンバインで稲束等を手こぎする時は、ワラ送りチェーンに巻き込まれやすいタオルや腕抜き、軍手などをはずしてから作業するようにしましょう。また、コンバインのカッター部にワラが詰まった時は、必ずエンジンを停止させてからワラの詰まりを取り除きましょう。

農業大学校で農業を学びませんか！



滋賀県立農業大学校(専修学校)では、本県農業を担う優れた青年農業者等を養成する「養成科」と就農に必要な技術と知識を修得、就農するための「就農科」があります。

オープンキャンパスの開催等について、詳しくは同校教務担当(0748-46-2551)または農産普及課までお問い合わせください。また、就農科を希望される方は、願書受付開始までに、必ず就農予定地を所管している農産普及課にご相談ください。

各科の願書受付期日

| | 養成科(2年間) | | 就農科(1年間) |
|--------|------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------|
| | 推薦入試 | 一般入試(一次※) | 選考(一次※) |
| 募集人数 | 20名程度 | 10名程度 | 15名 |
| 願書受付期間 | 令和2年10月9日 ~10月20日まで | 令和2年11月27日 ~12月8日まで | 令和2年11月26日 ~12月24日まで |
| 応募資格 | 滋賀県内に在住で、令和3年3月に高等学校卒業見込みの者で成績優秀な者 | 高等学校を卒業した者および令和3年3月卒業見込みの者等 | 20歳以上65歳未満 修了後、県内で農業経営を行うことが確実な者等 |

※定員に達しない場合、二次募集あり